

第364回
日本泌尿器科学会新潟地方会
《プログラム・抄録》

日時：平成24年12月8日（土）午後4時00分
会場：新潟グランドホテル 4階 『メイプル』
新潟市中央区上大川前通3ノ町 025-228-6111

次回 第365回新潟地方会予告
日時：平成25年3月9日（土）午後3時
会場：未定
演題申込期限：平成25年2月5日（火）

- ※ すべてPCのみの発表とさせていただきます。
- ※ 口演時間は、7分。討論3分（時間厳守）

951-8510 新潟市中央区旭町通1の757
新潟大学大学院腎泌尿器病態学分野
日本泌尿器科学会新潟地方会
TEL：025（227）2289／FAX：025（227）0784
会長 高橋 公太

1. 精巣の温存が困難であった精巣外傷の1例

新潟大学大学院腎泌尿器病態学分野

黒木大生、池田正博、中川由紀、斎藤和英、高橋公太

症例は14歳男性、バスケットボールの最中に相手の膝が右精巣に当たって受傷した。受傷後より右陰囊の腫脹と疼痛を認めたため、1時間後に前医受診し精巣外傷の診断で当院搬送となった。当院にて白膜修復術を予定したが、破裂した精細管組織と、精管と精巣動静脈の断裂を認め、精巣の4/5は既に血流が途絶して壊死していた。精巣の温存は困難と判断し、右精巣除去術を施行した。今回、精巣除去術を余儀なくされた精巣外傷を経験したので文献的考察を加えて報告する。

2. 浸潤性膀胱癌に対する動注化学療法の近接効果の検討

県立がんセンター泌尿器科¹⁾、同 放射線科²⁾

信下智広¹⁾、小林和博¹⁾、斎藤俊弘¹⁾、北村康男¹⁾、林 博文²⁾、

関 裕史²⁾、松本康男²⁾、杉田 公²⁾

【目的】浸潤性膀胱癌に対する動注併用化学療法の抗腫瘍効果、膀胱温存治療として有効であるか検討した。【対象】2004年7月以降に動注化学療法を施行した28例を対象とした。効果判定は2ndTUR、膀胱鏡、尿細胞診で行った。【結果】化療後の治療効果判定は、CR17例、PR10例、PD1例であった。【考察】高齢者は追加療法として放射線照射可能だが、若年者については膀胱内再発の可能性を考慮すると追加療法についての検討の必要がある。

3. 一時的に自然消退を認めた尿管癌の多発性肺転移の1例

立川総合病院 安楽 力、田所 央、上原 徹

78歳男性、左尿管癌にて腎尿管全摘および術後化学療法を施行され、その後膀胱再発に対して5回TURBTを施行された。尿管癌の術後7年目に多発性肺結節を認めたが自然消退し、その3年後に尿管癌の全身転移を認め、現在化学療法を施行中である。考察を加えて報告する。

4. 尿閉で判明したADEMの2例

長岡赤十字病院¹⁾、同 神経内科²⁾、県立新発田病院³⁾、立川総合病院⁴⁾

丸山 亮¹⁾、白野侑子¹⁾、石崎文雄¹⁾、米山健志¹⁾、森下英夫¹⁾、

須貝章弘²⁾、梅田麻衣子²⁾、藤田信也²⁾、鈴木一也³⁾、安楽 力⁴⁾

急性散在性脳脊髄炎(acute disseminated encephalo myelitis; ADEM)はウイルス感染後やワクチン接種後に生じるアレルギー性の脳脊髄炎で、髄膜刺激症状以外に、意識障害、けいれん、麻痺、失語など病変部位により症状は多彩である。今回われわれは、尿閉を機にADEMが判明した2例を経験したので、若干の文献的考察を加えて報告する。

5. 前立腺生検における Gleason score 7 と篩状パターンについて

県立がんセンター病理部¹⁾、同 泌尿器科²⁾

川崎 隆¹⁾、信下智広²⁾、小林和博²⁾、斎藤俊弘²⁾、北村康男²⁾

2009年の前立腺生検でGleason score 7とされ、保存的に治療が行われた46例を対象に、GS 3+4と4+3の悪性度について検討した。3+4群が30例、4+3群が16例で、観察期間は35～45ヶ月であった。年齢と生検時PSAは4+3群が有意に高く、陽性コア数と臨床病期に有意差はなかった。PSA再発は、各群に1例ずつでPSA非再発率に有意差はなかったが、2例ともstage IVで、篩状腺管を伴っていた。PSA非再発症例でstage IVは、4+3群に2例あり、いずれも篩状腺管主体であった。両群の悪性度に違いはなかったが、篩状パターンが癌の進展に関連する可能性が示唆された。

16:50～17:40

座長 丸山 亮

6. 当院における前立腺癌に対する放射線外照射療法の検討

新潟労災病院、同 放射線科 羽場知己、秋山さや香、小池 宏、中野敬太

2008年1月～2013年7月までの期間に前立腺癌に対して放射線外照射療法を行った120例の検討を行った。放射線療法後の観察期間の最長は40ヶ月であった。根治療法を目的とした前立腺癌への外照射は94症例に行われ、そのうち37例に、アンドロゲン除去療法が先行されていた。CTCAE v4.0（有害事象共通用語規準 v4.0）に準じて有害事象の評価を行ったが、明らかなGrade 3以上の有害事象の出現を認めなかった。

7. 尿道形成にThiersch-Duplay 二期的手術法を用いた3症例

新潟大学大学院腎泌尿器病態学分野¹⁾、新潟市民病院泌尿器科²⁾
小原健司¹⁾、新井 啓¹⁾、星井達彦¹⁾、小松集一¹⁾、安藤 崇¹⁾、
結城恵里¹⁾、黒木大生¹⁾、山口峻介¹⁾、高橋公太¹⁾、筒井寿基²⁾

今日、尿道下裂修復術は一期的に施行される症例がほとんどである。今回、先天性尿道皮膚瘻と尿道形成不全を合併した1例と尿道下裂症例2例に二期的手術を施行したので報告する。一期目手術として、索切除の後にbyars flapを作成し背側包皮を腹側に移動させる。このとき、glanular wingを作成した後に包皮形成を行う。約1年後に腹側に移動させた包皮を用いて尿道形成を行う。3症例でスリット状の外尿道口と包皮環状切除術後の外観が得られた。二期的手術法は症例によっては有用な術式と思われた。

8. 慢性骨盤痛症候群に四逆散と五淋散併用が奏功した女性症例

会津クリニック 玉木 信

当院では、慢性前立腺炎、間質性膀胱炎を含む慢性骨盤痛症候群にまずノイロトロピン単独もしくはセルニチンポーレンエキス（セルニルトン）併用にて効果を得ているが、難治な場合、プレガバリン（リリカ）、デュロキセチン（サインバルタ）も処方している。最近ノイロトロピンにても難治であった慢性膀胱炎にともなう骨盤痛症例にご四逆散＋五淋散を処方し、奏功した女性例2例を経験したので報告する。評価は間質性膀胱炎スコアを用いた。

9. ヘッドハンターに遭遇して分かったこと・考えたこと

済生会新潟第二病院 吉水 敦

2011年11月にヘッドハンターより私に会いたいとの手紙が届いた。クライアントは統廃合病院からの病床譲渡を受けた民間病院で、HoLEPを期待されていた。学会での活動やDPCのデータも参考にせず製薬会社のMRや医療機器の業者などの口コミでサーチしており、当院で以前働いていた看護師に私の働きぶりを確認していたと知った。ヘッドハンターとは二回会ったが、条件が合わず話はなかったことになった。実際に会ってみて、彼らは有能な医師を調査したり医局と交渉したりするノウハウを持っていることが分かった。医師ヘッドハンティング市場は今後広がることは期待できないようなので、今後は学閥とか学会内でのもたれ合いでの評価でなく真に実力ある医師が一つの病院に縛られず活躍する場を斡旋・提供するような事業を手がけそれを一つのビジネスモデルとして確立して日本の医療の活性化に一役買ってもらいたいと考えている。

10. 新潟市前立腺がん検診の疫学調査

—平成 17 年度精検受診者の追跡調査および 1 次検診受診者と新潟県がん登録の照合調査—

新潟市前立腺がん検診検討委員会

小松原秀一、渡辺 学、西山 勉、吉水 敦、谷川俊貴、今井智之、斉藤俊弘、木村元彦

新潟市は 50 歳以上 5 年節目の検診である。検診開始 2 年目の 17 年度の結果は県の公表値で精検受診率 29.5%、初診時がん数 21 名、発見率 520.6 (10 万対) とされたが、遅れていた精検報告の追加により受診率 37.6%、平成 23 年末の追跡調査により初診時がん数 32 名、経過観察後の診断 19 名となった。1 次検診受診者名簿を新潟県がん登録名簿と照合すると、受診年から 3 年間で 86 名が前立腺がん登録されていた。

《休憩 17:40～18:00》

新潟泌尿器科同窓会総会

18:00～18:30

[会場 4階 メイプル]

新潟地方会・同窓会合同懇親会を総会終了後 3 階「悠久の間」で行います。

日本泌尿器科学会会員証を必ずご持参下さい。